

《ASEAN》第51回アセアン外相会議 加盟10カ国の外相：プロフィール

来る7月30日から8月4日まで、第51回東南アジア諸国連合(ASEAN)外相会議(AMM)と第19回ASEANプラス3(日中韓)外相会議(APTFMM)を含む対話国10カ国との関連会合、および第25回ASEAN地域フォーラム(ARF)がシンガポールで開催される。そのシンガポールでは、6月12日に史上初の米朝首脳会談が行われており、同会談がASEANを含む東アジア地域に及ぼす安全保障上の影響が一連の会議の重要な議題になるのは間違いない。また、中国による軍事化が進む南シナ海の領有権や「航行の自由」問題に加えて、国連機関や国際的な人権団体などから厳しい非難が出ているミャンマーのロヒンギャ迫害問題なども、流動化が激しいASEAN内外の最新情勢を踏まえた上で踏み込んだ討議がなされることになる。

アセアン外相会議・関連会合

開催期間：2018年7月30日～8月4日

開催場所：シンガポール

*第51回ASEAN外相会議(AMM)

*ASEAN拡大外相会議・会合(PMCs)

*第19回ASEANプラス3(日中韓)外相会議(APTFMM)

*第8回東アジア首脳会議(サミット)参加国外相会議(EASFMM)

*第25回ASEAN地域フォーラム(ARF)

《シンガポール：2018年ASEAN議長国》

■外相 Minister for Foreign Affairs

ビビアン・バラクリシュナン Dr Vivian Balakrishnan



東南アジア諸国連合(ASEAN)の2018年議長国であるシンガポールの外相。2015年10月の現第4次リー・シェンロン政権発足時から現職(外相)を務める。4回生国会議員。政界入りする前は著名な眼科医で、シンガポール総合病院最高経営責任者(CEO)を務めていた。

*史上初の米朝首脳会談が6月12日にシンガポールで行われることが最終的に決定されるまでには、ワシントンでポンペオ米 국무長官、平壤で李容浩外相と会談するなど実務面での調整役を担った。また、首脳会談の前夜(11日)に金正恩朝鮮労働党委員長がシンガポールの観光名所を散策した時には案内役を務める姿が国際社会に広く紹介された。

*南シナ海情勢では、米中両国と良好な関係を持つのに加えて、領有権問題に直接関係しないシンガポールの「中立的」立場から、当面の緊張緩和に向けた「海上衝突回避規範(CUES)」の策定を提案。今年3月下旬のASEAN首脳会議では、フィリピンで開かれた前回(昨年)の首脳会議での議長声明で落とされた「(中国による実効支配に)懸念」という文言を同(バラクリシュナン)氏の根回しで復活させた。

*2001年に眼科医から政治家に転進。2004年のリー・シェンロン政権発足以来、社会開発・青年スポーツ相や環境・水資源相などを歴任。

▼データ：【年齢】57歳(1961年1月25日生まれ)【生地】シンガポール【人種】インド(タミール)系【宗教】キリスト教【政党】人民行動党(PAP)：中央執行委員【学歴】国立シンガポール大学(NUS)医学部卒(MBBS)/同大学医学修士(眼科学)【経歴】[1986年]シンガポール国軍(SAF)衛生官/[93年](英ロンドン)モーアフィールド眼科病院、(シンガポール)国立大学病院(NUH)などで眼科医/[97年] NUH眼科部長/[98年] NUS医学部準教授/[99年]シンガポール総合病院最高経営責任者(CEO)/[2001年11月総選挙]国会議員に初当選/[02年](ゴ・チョクトン政権)国務相(国家開発)/[03年]国務相(国家開発・通産)/[04年](第1次リー・シェンロン政権)社会開発・青年スポーツ相代行兼国務相(通産)/[05年]社会開発・青年スポーツ相兼第二通産相/[06年](第2次リー・シェンロン政権)社会開発・青年スポーツ相兼第二情報通信・芸術相/[08年]社会開発・青年スポーツ相/[11年5月](第3次リー・シェンロン政権)環境・水資源相/[15年9月11日総選挙]国会議員に再選(4期目)：ホランド・ブキティマ集团選挙区、[10月1日](第4次リー・シェンロン政権)外相(一現在)【趣味】コンピューター、読書【家族】ジョイ(Joy)夫人との間に4子。

《タイ：2019年ASEAN議長国》

■外相 Minister of Foreign Affairs

ドン・プラマットウィナイ Don Pramudwinai



2015年8月に実施されたプラユット現軍事政権の内閣改造で副外相から現職(外相)に昇格。元エリート外務官僚。タイの内政関連では、軍政の民政復帰に向けた誠意や具体的な行程を国際社会に説明する「広報官」役を担っている。

*タイを訪問した日本の河野太郎外相と6月27日に会談し、米国を除く11カ国による環太平洋連携協定(TPP)

へのタイの新規加入を要望し、河野氏に加入に向けた支援を要請。

*閣僚就任時に公開した個人資産のリスト中に記載されていなかった、ナリラット夫人による同族企業の株式保有(5%以上)が2017年憲法の条項に抵触すると選挙委員会(EC)が裁定したことで、6月には反軍政陣営などから辞任要求が突き付けられた。本人は、当該の株式はすでに妻から息子の所有に移されたなどと説明し、辞任の意思がないことを言明。

*ミャンマー同様に上座部仏教徒が多数派であるタイの外相らしく、ロヒンギャ迫害問題ではアウン・サン・スー・チー国家顧問兼外相が率いるミャンマー政府には同情的な立場を表明。

*外交官養成の名門・米タフツ大学フレッチャースクールで修士号を取得し、外務報道官をはじめ中国、EU、国連、米国各大使などの要職を歴任。

▼データ：【年齢】68歳(1950年1月25日生まれ)【学歴】チュラロンコン大学卒(理学士)/米カリフォルニア大学(LA)卒(政治学)/同大学修士(国際関係論)/(米)タフツ大学(フレッチャースクール)修士(国際関係論)/タイ国防大学文官課程修了【経歴】[1974年]外務省入省/大臣官房、ASEAN局で勤務/[81年]駐西ドイツ大使館(ボン)1等書記官/[84年]同参事官/[85年]本省政治局東南アジア部長/[88年]駐英公使/[92年]東アジア局長/[94年]駐スイス大使/[99年]情報局長兼外務省報道官/[2001年]駐中国大使/[04年]駐欧州連合(EU)大使/[07年](米ニューヨーク)国連大使/[09年]駐米大使/[10年]定年退官/[14年9月](プラユット暫定内閣)副外相/[15年8月23日](同改造内閣)外相(一現在)【家族】ナリラット(Narirat)夫人。

《マレーシア》

■外相 Minister of Foreign Affairs

サイフディン・アブドゥラ Datuk Saifuddin Abdullah



マハティール首相が7月2日に実施した組閣第2弾で現職(外相)に抜擢された。来る第51回AMMは外相としての国際会議デビューとなる(予定)。与党連合「希望連盟(PH)」の書記長。

*2015年までは、当時の与党第1党(現野党第1党)「統一マレー国民組織(UMNO)」の幹部(最高評議員)で、アブドゥラ政権で副起業家・協同組合相、ナジブ政権

で副高等教育相を務めたことがある。同年に政府系ファンド「IMDB」の資金流用疑惑をめぐるナジブ首相(当時)の対応を批判してUMNOを離党、当時の野党第1党(現与党第1党)の「人民正義党(PKR)」に移籍した。
*UMNO時代から党内リベラル・改革派の急先鋒として知られ、政府の野党陣営や反政府系市民団体・NGOの街頭示威行動に対する政府の強権

的な対応を批判してきた。「Towards A Mature Malaysian Democracy」(英語)など数冊の著作がある。

*外相としては、国際的な人権問題会議や環境保全関連の会議で積極的な役割を果たしていく方針を示している。

▼データ：【年齢】57歳(1961年1月27日生まれ)【生地】(旧マラヤ連邦)パハン州メンタカプ【人種】マレー人【宗教】イスラム教【政党】人民正義党(PKR)【学歴】[1984年] マラヤ大学卒(文学士：優等)/(米)ハーバード大学経営学学位【経歴】政治家/[2008年3月総選挙] 下院議員に初当選(UMNO：パハン州トゥメルロー選挙区、[3月19日] (アブドゥラ改造内閣)副起業家・協同組合相/[09年4月10日] (第1次ナジブ内閣)副高等教育相/[13年5月総選挙] 下院議員選挙で落選、のちマラヤ大学研究員(フェロー)/[14年] 同研究員を辞職/[15年10月] UMNOを離党しPKRに移籍/[18年5月9日総選挙] 下院議員に再び咲き(PKR：パハン州インデラマールコタ選挙区、[7月2日] (マハティール内閣)外相(一現在)【歴任】マレーシア青年協議会会長/「グローバル健康派運動」総裁(CEO)/国家情報技術協議会委員【趣味】読書【家族】ノルリン(Datin Norlin Shamsul Bahri)夫人との間に1子。

《ブルネイ》

■第二外務通商相 Second Minister of Foreign Affairs and Trade

エルワン・ユソフ Erywan Mohd Yusof



ボルネオ王国(首相・財務相・国防相・外交通商相)が今年1月末に実施した突然の内閣改造で副外務通商相から現職(第二外務通商相)に昇格。ブルネイ政府では外相はボルネオ王国が兼任しているため、ASEAN外相会合などの国際会議では実質的な「外相」(諸外国の外相のカウンターパート)の責務を果たす。

*2005年に外務通商省に異動するまでは、産業資源省で技工を務めた応用遺伝学の専門家。

▼データ：【学歴】[1988年] (英ウェスト・ヨークシャー州)リーズ大学卒(遺伝学・生物物理学：優等)/[91年] (英ウェールズ)スウォンジー大学理学修士(遺伝学・応用遺伝学)【経歴】[1989年] 産業資源省入省、畜産化学技官/[91年] 雑農作物課長/[94年] ASEAN Agriculture Matters担当官/[2005年5月] 外務通商省国際通商局に異動/[08年1月] 同省副事務次官、[8月] 同省事務次官/[15年10月] 副外務通商相/[18年1月30日] (内閣改造)第二外務通商相(一現在)【兼任】[2015年10月] ブルネイ戦略評議会共同副議長(一現在)/[16年] ブルネイ経済開発委員会副委員長(一現在)

《インドネシア》

■外相 Minister of Foreign Affairs

ルトノ・マルスディ Retno Lestari Priansari Marsudi

2014年10月のジョコ・ウィドド内閣(「働く内閣」)発足時にインドネシア初の女性外相に抜てきされた。キャリア外務官僚で前駐オランダ大使。*インドネシアを訪問した日本の河野太郎外相と6月25日に会談し、河野氏が説明した「自由で開かれたインド太平洋戦略」の下で日本・インドネシア両国が協力していくことに賛意を表明。また、北朝鮮問題では、米朝首脳会談の結果を踏まえ、北朝鮮の非核化に向けた具体的な行動を注視しつつ、安保理決議を引き続き厳格に履行していくことに同意した。

*2015年12月、ASEAN加盟国では初めてとなる日本との外務・防衛閣僚会合(2プラス2)を設置(同会合は2年ごとに定期開催)。

▼データ：【年齢】55歳(1962年11月27日生まれ)【生地】中ジャワ州スマラン【学歴】[1985年] ガジャマダ大学卒(国際関係論)/(オランダ)ハーグ応用科学大学修士(国際・欧州法)/(ハーグ)クリンゲンダール国際関係研究所外交官研修課程修了【経歴】[1985年] 外務省入省/[97年] 駐オランダ大使館(ハーグ)経済担当1等書記官/[2001年] 本省欧州・アメリカ総局部長/[03年] 西ヨーロッパ局長/[05年] 駐ノルウェー大使/[09年] 欧州・アメリカ総局長/[12年] 駐オランダ大使/[14年10月27日] (ジョコ・ウィドド内閣)外相(一現在)【家族】夫君はアグス(Agus Marsudi)氏。子供2人。

《フィリピン》

■外相 Secretary of Foreign Affairs

アラン・ピーター・カエタノ Alan Peter Schramm Cayetano



2017年5月に米国市民権を巡り議会で虚偽説明をしていたとして辞任したペルフェクト・ヤサイ(Perfecto Yasay Jr.)氏の後任として現職(外相)に就任。上院議員からの「転出」。2017年はフィリピンがASEAN議長国だったことから第50回AMMの議長を務めた。*ドゥテルテ大統領が主導する「超法規的処刑」も辞さない麻薬犯罪撲滅政策(「麻薬戦争」)に対して国連機関、

欧米諸国、国際人権団体から厳しい批判が噴出する中で、国際社会に対する大統領擁護の「弁護人」の役割を演じている。南シナ海の領有権問題では、ドゥテルテ大統領の方針を受けて中国に対する融和的な政策を進めることに腐心。

*2016年5月の正副大統領選挙では、ドゥテルテ候補(現大統領)とペアを組んで副大統領候補として出馬したが(副大統領選で落選)。

▼データ：【年齢】47歳(1970年10月28日生まれ)【生地】(首都圏)マニラ市【宗教】プロテスタント(福音派)【学歴】国立フィリピン大学(UP)卒(文学士：政治学)/アテネオ・デマニラ大学法科大学院卒(Juris Doctor取得)/フィリピン法廷弁護士資格取得【経歴】弁護士(法律事務所パートナー)/[1992年] (マニラ首都圏)タギッグ市議会議員/[95年] タギッグ市副市長/[98年] 下院議員(3期連続当選：タギッグ市-パテロス単独区)/[2007年5月中旬選挙] 上院議員/[13年6月] 上院議員に再選(2期目：-17年5月17日)、[7月] 上院多数派院内総務(-16年7月)/[16年5月国政・地方統一選挙] 副大統領選に出馬するが落選、[7月25日] 上院外交委員長兼農地改革委員長(-17年5月17日)/[17年5月18日] (ドゥテルテ政権)外相(一現在)【家族】マリア・ラーニ(Maria Laarni Lopez)夫人。

《ベトナム》

■副首相兼外相 Deputy Prime Minister and Minister of Foreign Affairs

ファム・ビン・ミン Pham Binh Minh

▼データ：【年齢】59歳(1959年3月26日生まれ)【生地】(紅河デルタ)ナムディン省【政党】ベトナム共産党(CPV)：政治局員【学歴】ハノイ外交大学卒/(米)タフツ大学法学修士【経歴】外務官僚/駐英大使館書記官/外務省国際機関局副局長/国連大使/駐米副大使/外務省国際機関局長/同省次官/[2011年8月] 副首相兼外相(一現在)

《カンボジア》

■外務・国際協力相

Minister of Foreign Affairs and International Cooperation

プラク・ソーコン Prak Sokhon

▼データ：【年齢】64歳(1954年5月3日生まれ)【生地】プノンペン【政党】カンボジア人民党(CPP)：中央委員【軍歴】陸軍大将【学歴】(プノンペン)法学士/(ハンガリー・ブダペスト)国際ジャーナリスト養成学院学位/(仏パリ)国際行政学院学位/(同)外交・戦略研究センター学位【経歴】[1979年] (プノンペン政府)軍入隊/[86年] 軍機関紙副編集長/[93年] カンボジア王国軍情報部長(報道官)、(フン・セン)首相顧問/[99年] 駐仏大使/[2003年] カンボジア王国政府副官房長/[04年] 閣僚評議会会長(副首相府相)/[09年] 首相府相兼首相顧問/[13年9月] (第4次フン・セン政権)郵便・電信相/[16年4月5日] (フン・セン改造内閣)外務・国際協力相(一現在)【歴任】カンボジア地雷対策・被害者支援庁(CMAA)副長官【言語】カンボジア語、フランス語、英語【家族】既婚。子供3人。

《ラオス》

■外相 Minister of Foreign Affairs

サルームサイ・コンマシット Saleumxay Kommasith

▼データ：【年齢】49歳(1968年10月31日生まれ)【生地】(北部)フアパン【政党】ラオス人民革命党(LPRP)：中央委員【学歴】[1992年] (ロシア)モスクワ国立国際関係大学文学修士/[97年] (蒙)モナシュ大学文学修士(国際研究学・開発学)【経歴】外務官僚/[1992年] 外務省第2局豪州課事務官/[94年] 欧米局米国課事務官/[98年] 欧米局西欧課課長補佐/[2000年] (米ニューヨーク)国連ラオス政府代表部2等書記官/[03年] 外務省国際機関局国連課課長/[04年] 国際機関局副局長/[07年] 同局長/[11年] 外務次官/[12年] (米ニューヨーク)国連代表部大使/[14年] 副外相/[16年4月20日] (第8期第1回国会：トンソン内閣)外相(一現在)【趣味】ゴルフ、サッカー【言語】ラオス語、英語、ロシア語、フランス語【家族】既婚。子供は2女。

《ミャンマー》

■国家顧問兼外相兼大統領府相

State Counsellor/Minister for Foreign Affairs & Minister for President's Office

アウン・サン・スー・チー Daw Aung San Suu Kyi

▼データ：【年齢】73歳(1945年6月19日生まれ)【生地】ランゲーン(現ヤンゴン)【政党】国民民主連盟(NLD)：党首(議長)【経歴】[2016年4月6日] 国家顧問兼外相兼大統領府相(一現在)【学歴】【経歴】【家族】などの詳細は、多くの邦文・英字文献やインターネットの情報サイトで紹介されているので省略する)

(アジア・リンケージ 勝田 悟)